

山梨学院小学校

2023年度 自己点検・評価報告書

(Web 配信用)



(2023年 スポーツフェスティバル)

はじめに

自己点検・評価の意義と方法

学校は、みずからの教育活動、学校運営などについて、短期的あるいは長期的な目標を設定しています。その達成状況や、達成に向けての取り組みの適切さを評価することは、先行きが見通しがたい現代社会においては、必須の活動であると思われま

す。学校はまた、こうした自己点検を行うとともに、保護者（学校関係者）などからの評価を受け、それらを公表することによって、保護者（学校関係者）への説明責任もはたすことができます。これにより、保護者（学校関係者）からの学校への理解と信頼を深めることになり、学校と家庭・地域との連携をはかることにつながっていきます。

本校では、こうした自己点検・評価を実施するために、以下の四つの評価項目を設定しています。

- 1 学校の目標および計画（学校重点目標、学年重点目標）
- 2 学校の体制（学校行事、研修・授業研究）
- 3 カリキュラム（教育課程、学習活動、表彰実績）
- 4 健康・安全（健康管理、安全管理）

学校評価の活用と留意点

学校評価の結果をふまえて、学校は、あらためて課題を確認し、その改善に迅速に取り組まなければなりません。これについて、関係者全員がなすべきことは、課題についての情報を共有し、協同して積極的に解決策を模索することです。とくに教職員と保護者のあいだで教育活動、学校運営についての相互理解をはかり、すみやかな課題解決に向けて協力体制をつくりだすことが大切です。

本校では、情報の共有と協力体制を確立するために、ミーティングとカンファレンスを積極的に活用しています。たとえば、部門、領域ごとの教職員ミーティングは、ほぼ毎日開かれます。また、教職員全員が参加する教育カンファレンスも定期的開催されます。こうしたミーティング、カンファレンスをつうじて、日常的な自己点検（自己評価）が行われ、保護者への連絡、保護者との協力をふくめ、問題に対するすみやかな対応ができるようになっています。

本報告書は、本校で実践されている細やかで迅速な自己評価・自己対応を裏づけるものであると同時に、私たちが来るべき未来に向かうための礎です。

2024年3月

校長 瀬端 淳一郎

目次

はじめに
目次

I 目標およびカリキュラム

- (1) 2023 年度 学校重点目標（全学年共通）
 - ① 学校重点目標の教員自己評価
 - ② 学校重点目標に関する保護者評価
- (2) 2023 年度 学年重点目標
 - ① 第1 学年（教員評価）
 - ② 第2 学年（教員評価）
 - ③ 第3 学年（教員評価）
 - ④ 第4 学年（教員評価）
 - ⑤ 第5 学年（教員評価）
 - ⑥ 第6 学年（教員評価）
- (3) メディア利用状況
 - ① 学校図書貸し出し状況
 - ② コンピュータ活用状況
- (4) 表彰実績

II 学校体制

- (1) ~~学級数・在籍児童数（削除）~~
- (2) ~~教職員一覧（削除）~~
- (3) 研修・授業研究
 - ① 研修・授業研究
 - ② 主な授業研究
- (4) 家庭と学校の連携
 - ① 主な発行物
 - ② 家庭との連携に関する保護者評価

III 健康・安全

- (1) 健康管理
 - ① 保健室来室状況
 - ② けがについて
 - ③ 学校環境衛生の管理状況
 - ④ 健康管理の全体の評価と改善

(2) 安全

- ① 防災対策
- ② 防犯対策
- ③ 安全に関する保護者評価

おわりに 来年度に向けて

I 目標およびカリキュラム

(1) 2023 年度 学校重点目標 (全学年共通)

① 学校重点目標の教員自己評価

2023 年度は以下の項目の学校重点目標を設定した。学年主任が学年スタッフの意見を集約して学年別の評価を算出し、さらにそれらを総合して、校長が学校としての全体評価を下した(表1-1-1)。

表1-1-1 2023 年度 学校重点目標の教員による自己評価
(A: 十分に達成 B: おおむね達成 C: やや達成 D: 未達成 -: 該当しない)

重点項目	重点目標	1年	2年	3年	4年	5年	6年	学校としての全体評価
1 YGES メソッドを基にした 質の高い授業の創造	重点① 質の高い授業を目指した校内研修・ 研究の強化	A	A	A	A	A	A	A
	重点② 探究型学習を支える基礎学力の定着	A	A	A	A	A	A	A
	重点③ 季節感や温かみ、ユーモアを大事に した学習の推進	A	A	A	B	A	B	A
2 山梨学院小プロジェクトの 展開	重点① 国際バカロレア PYP 認定校として のカリキュラムの実施	A	A	A	A	A	A	A
	重点② 保護者への PYP 理解の促進と共有	B	B	B	B	B	B	B
	重点③ 読書を中心としたプロジェクト活動 の充実	A	A	A	A	A	A	A
3 グローバル感覚の育成機会 の充実	重点① 英語圏・アジア圏などの多文化・ 多言語を学習する機会の拡充	A	B	A	B	A	A	A
	重点② TOEFL Primary や英検などの外部 試験の実施と推奨	/	/	/	B	B	A	B
	重点③ World School としてのグローバル な教育の展開	/	/	/	B	B	B	B
4 系列学校連携の促進	重点① 幼小中連携による交流会の充実	B	A	A	A	A	B	A
5 トワイライトスクールの教 育活動の充実	重点① ニーズに対応したコンテンツの充実	/	/	/	/	/	/	/

② 学校重点目標に関する保護者評価

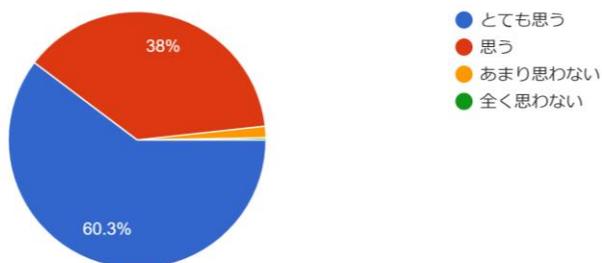
2023 年度学校重点目標「より質の高い授業」に関連して、年度末に全校保護者を対象としたアンケートを実施した。結果は以下の通りであった。

保護者アンケート

1. 本校の教育と子どもの成長 より

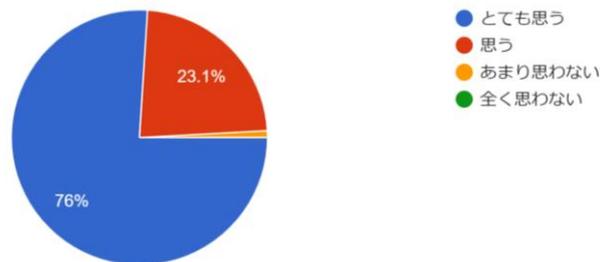
1-1 山梨学院小学校では、自律性、思考力、表現力、共生が身につく魅力ある質の高い授業が実践されている。

とても思う・・・・・・・・・・60%
思う・・・・・・・・・・38%
あまり思わない・・・・・・・・ 1%
まったく思わない・・・・・・・・ 1%



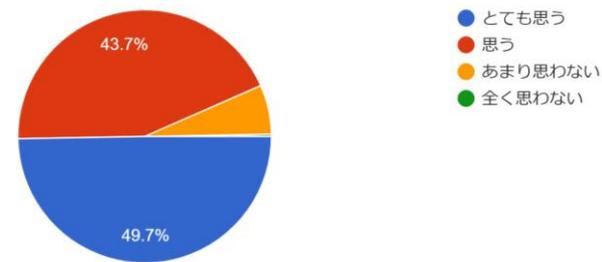
1-2 スポーツ、サマー（卒業旅行）、カルチャー、サミットなどの各種プロジェクトは子どもたちを成長させている。

とても思う・・・・・・・・・・76%
思う・・・・・・・・・・23%
あまり思わない・・・・・・・・ 1%
まったく思わない・・・・・・・・ 0%



1-3 PYP、英語教育をはじめ、グローバルな教育観をもとに活動が行われている。

とても思う・・・・・・・・・・50%
思う・・・・・・・・・・44%
あまり思わない・・・・・・・・ 6%
まったく思わない・・・・・・・・ 0%



(2) 2023年度 学年重点目標

① 第1学年 (教員評価)

第1学年目標に関する教員評価は以下の通りである(表1-2-1)。なお、評価は学年スタッフすべての自己評価を学年主任が集約し、最終評価とした(他学年も同様)。

表1-2-1 第1学年目標 (教員評価)

(A:十分に達成 B:おおむね達成 C:やや達成 D:未達成)

重点項目		重点目標 (具体的指標)	評価
生活面	(1) 社会性の向上 (思いやりのある人- Caring)	重点① 元気で気持ちのよいあいさつや返事, お礼をする習慣の定着	A
		重点② 失敗を許し合える関係づくりで高める, 失敗を恐れない心の育成	A
	(2) 基本的生活習慣の獲得 (考える人 - Thinkers)	重点① 時間を意識して行動する態度の育成 (ノーチャイムの習慣化)	B
		重点② 学習準備や整理整頓を自ら行う態度の育成	A
学習面	(1) 基本的な学習態度の育成 (信念をもつひと - Principled)	重点① 探究学習を支えるための「聞く, 書く, 話す」の基本スキルの定着	A
	(2) 読書への興味・関心の向上 (知識のある人- knowledgeable)	重点① 読書への興味や関心を高めるための「読み聞かせと朝読書」の実施	A
		重点② 書籍や図鑑などの本を活用した, 調べ学習の充実で育む資料活用能力	A
		重点③ 児童の読書意欲を高める「とっておきの1冊コレクション」の実施	A
	(3) 表現力や豊かな感性の向上 (挑戦する人- Risk-takers)	重点① 野菜の生長を通じて観察力や豊かな感性を育む「栽培活動」の実施	B
		重点② 児童の主体性を活かし, 自由に表現できる「季節イベント」の企画・実施	A
	(4) 社会的・科学的な思考力の育成 (探究する人- Inquirers)	重点① 自然とふれ合うための校外学習の実施	A
		重点② 日本や世界の伝統や文化にふれる国際理解教育の実施	A
健康面	(1) 運動の習慣化による体力の向上 (バランスのとれた人- Balanced)	重点① スポーツプロジェクトを通じた, スポーツを楽しむ心の育成	A
		重点② 運動や遊び, ゲームの推進と体力増進 (おにごっこ・短なわ・長なわ運動等)	A
	(2) 基本的な衛生習慣の定着 (振り返りができる人- Reflective)	重点① 手洗い・うがいの習慣化	A
		重点② ハンカチ・ティッシュの携帯の習慣化	B

② 第2学年（教員評価）

第2学年目標に関する教員評価は以下の通りである（表1-2-2）。

表1-2-2 第2学年目標（教員評価）

（A：十分に達成 B：おおむね達成 C：やや達成 D：未達成）

重点項目		重点目標（具体的指標）	評価
生活面	(1) 社会性の向上 (思いやりのある人 - Caring)	重点① 自分から進んであいさつ、返事、お礼の習慣化	A
		重点② 場に応じた立ち振る舞い、礼儀や言葉遣いの習得（挨拶、姿勢、マナー、整理整頓、美文字など）	A
	(2) 自律的な行動の育成 (信念をもつひと - Principled) (考える人 - Thinkers)	重点① 自分たちの問題を自ら解決する意欲とスキルを育み、自治力を高める集団づくりの構築	B
		重点② 時間を守って授業の準備や行動ができる態度の育成	B
学習面	(1) 読む力・聞く力・話す力の育成 (挑戦する人 - Risk-takers)	重点① 読書活動の推進・読み聞かせ・おすすめ本の紹介やブックトーク、アニメーションなどの活動の実施（身近に本がある環境づくり）	A
		重点② 人の話を傾聴する態度の育成	A
		重点③ 自分の伝えたいことを分かりやすく、自信をもって相手へ伝える力の育成（1分間スピーチ・英語領域と連携した自己紹介スピーチ）	B
	(2) 社会的・科学的な探究心と思考力の育成 (探究する人 - Inquirers) (知識のある人 knowledgeable) (心をひらく人 - Open-minded)	重点① 校外学習や学外施設を活用した体験的な活動と結びつけた学習の実施（身近な社会や自然に触れ、知的好奇心を高める機会の充実）	A
		重点② グローバルな視点での異文化理解・言語・国際理解教育の推進（日本の伝統文化の理解、聴覚障がいや手話の理解を含む）	B
		重点③ 図書館の仕組みに関して理解を深め、仲間と協力して工夫を重ねる「2年生オリジナル図書館づくり」の実施（ライブラリープロジェクト）	B
(3) 豊かな表現力や感性の向上 (振り返りができる人 - Reflective)	重点① 企画・運営を伴う活動の推進と言語・音楽・身体を用いた表現力の充実（クラス単位のイベント企画）	A	
健康面	(1) 運動の習慣化による体力向上と心身の健康行動や態度の育成 (バランスのとれた人 - Balanced)	重点① さまざまな動きを伴う外遊びやレクリエーション活動、なわとび運動による体力増進（朝の活動の実施）	A
		重点② 仲間との運動遊びを通じた協調性の習得とチームワークの育成	B
	(2) 衛生習慣を身につける (思いやりのある人 - Caring)	重点① うがい、手洗い、健康管理に繋がる態度の育成	B

③ 第3学年（教員評価）

第3学年目標に関する教員評価は以下の通りである（表1-2-3）。

表1-2-3 第3学年目標（教員評価）

（A：十分に達成 B：おおむね達成 C：やや達成 D：未達成）

重点項目		重点目標（具体的指標）	評価
生活面	(1) 社会性の育成 (思いやりのある人-Caring)	重点① 人間関係を円滑にするためのコミュニケーション力の育成	B
		重点② 共生をめざし協働的に学び合う (Unit1 マークの世界)	A
	(2) 自律的な態度の育成 (振り返りができる人-Reflective) (信念を持つ人-Principled)	重点① 自分やコミュニティのことで見返し行動につなげようとする態度の育成 (Unit6 サミットプロジェクト)	B
		重点② 時間を守って見通しをもって行動する態度の育成 (Unit3 サマープロジェクト)	A
学習面	(1) 探究心と社会的・科学的な思考力の育成 (探究する人-Inquirers) (知識のある人-Knowledgeable)	重点① 科学関連のを中心とした不思議に感じることに触れる探究型学習の実施 (Unit4 Wonder world)	A
		重点① 季節を感じる活動を通して、自然を身近に感じ大切にしている態度の育成 (絵画 , 手紙 , 音楽) Unit5 Dive into music	B
	(2) 情操や感性の獲得 (心をひらく人-Open-minded) (考える人-Thinkers)	重点② 国際理解・多言語・多文化理解教育の推進 (英語・言葉・人間関係)	A
		重点③ 読書の推進 (本の紹介と読書の時間の設定)	A
健康面	(1) 体力持久力の向上 (挑戦する人-Fisk takers)	重点① オクトーバー運動場やスポーツ館を活用した持久運動の機会の確保 (Unit2 スポーツプロジェクト)	A
	(2) 心と体の健康の理解 (バランスのとれた人-Balanced) (信念を持つ人-Principled)	重点① 道徳的な価値観や仲間との協働、折り合いを考え合う場の設定 ((Unit3 サマープロジェクト)	B
		重点② バランスを考えて健康管理に取り組む態度の育成	B

④ 第4学年（教員評価）

第4学年目標に関する教員評価は以下の通りである（表1-2-4）。

表1-2-4 第4学年目標（教員評価）

（A：十分に達成 B：おおむね達成 C：やや達成 D：未達成）

	重点項目	重点目標（具体的指標）	評価
生活面	(1) 社会性の向上 (バランスのとれた人 - Balanced)	重点① 人間関係を円滑にするためのコミュニケーション力の育成	B
		重点② 公共性を高めるための場に応じたマナーと判断力の育成	A
	(2) 自律的な態度の育成 (考える人 - Thinkers)	重点① 相手を思いやって行動しようとする態度の育成	B
		重点② 時間を守って見通しをもって行動する態度の育成	A
学習面	(1) 学び高める心の育成 (挑戦する人 - Risk-takers)	重点① 自分の考え・気持ちを表現する「My Treasure コンテスト」で、英語を用いた豊かな表現力とスピーキングスキルを高める	C
	(2) 国際化する社会に対応する感覚の育成 (コミュニケーションがとれる人 - Communicators)	重点① 多文化多言語を身近に感じ、世界の現状や課題、国際協力への理解を深める活動の推進（JICA プログラムの活用・国際交流等の実施）	B
	(3) 情操や感性の育成 (心をひらく人 - Open-minded)	重点① 目的意識のある読書活動の推進（読書時間の充実、ビブリオバトル等図書活動に関連した学びの充実、「本からの学び」の表現活動の充実）	A
		重点② 課題に対する考えや意見を表現し、他者に向けて発信する機会の充実 (ポスターセッション・他学年との交流会の実施)	A
健康面	(1) 体力と持久力の向上 (バランスのとれた人 - Balanced)	重点① 朝活時の学習活動や運動をルーティン化する「朝活」の実施	A
		重点② 秋季から冬季を中心とした「マラソンチャレンジ」の実施	B
	(2) 心身の健康の維持 (振り返りができる人 - Reflective) (知識のある人 - knowledgeable)	重点① うがい・手洗いの励行と進んで健康管理に取り組む態度の育成	B
		重点② 学校生活での自分の成果や課題を振り返る「Daily review」の実施	B

⑤ 第5学年（教員評価）

第5学年目標に関する教員評価は以下の通りである（表1-2-5）。

表1-2-5 第5学年目標（教員評価）

（A：十分に達成 B：おおむね達成 C：やや達成 D：未達成）

重点項目		重点目標（具体的指標）	評価
生活面	(1) 社会性の向上 (コミュニケーションがとれる人-Communicators)	重点① 人間関係を円滑にするためのコミュニケーション力の育成	B
		重点② 場に応じたマナーの育成	A
	(2) 自律的な態度の育成 (考える人 - Thinkers) (振り返りができる人 - Reflective)	重点① 相手を思いやって行動しようとする態度の育成	B
		重点② より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて主体的に行動できる態度の育成	A
学習面	(1) 探究心と社会的・科学的な思考力の育成 (探究する人 - Inquirers) (知識のある人 - knowledgeable)	重点① 自主学習ノート「My Learning」の活用を通じた自ら学ぶ態度の育成（おや なぜ ふしぎ プロジェクト）	B
		重点② 妙高サマープロジェクトをはじめとした校外学習による、社会や自然、科学に触れる体験的活動の充実	A
		重点③ 基礎学力向上のための学習の継続	A
	(2) 情操や感性の育成 (心をひらく人 - Open-minded)	重点① 示されたテーマにぴったりあった本を探して内容を論じる「シンデレラブックを探せ」活動を2か月に一度行い、統合的な読書力を高める	A
		重点② 自然や芸術と親しむことを通じた、豊かな想像力の育成	A
		重点③ 異文化理解をはじめとした国際感覚の育成	A
健康面	(1) 体力、持久力の向上 (バランスのとれた人 - Balanced)	重点① 児童が主体となって運動種目を決めたり進行をしたりするレクリエーション活動を行い、学年全体で運動に取り組む時間を確保する	B
	(2) 心と体の健康の理解 (思いやりのある人 - Caring) (正義感のある人 - Principled)	重点① 道徳的な価値観や仲間との協調、折り合いを考えあう場の設定	A
		重点② うがい・手洗いの励行と進んで健康管理に取り組む態度の育成	B

⑥ 第6学年（教員評価）

第6学年目標に関する教員評価は以下の通りである（表1-2-6）。

表1-2-6 第6学年目標（教員評価）
（A：十分に達成 B：おおむね達成 C：やや達成 D：未達成）

	重点項目	重点目標（具体的指標）	評価
生活面	(1) 知性や学びに向かう姿勢を育む （探究する人 - Inquirers） （知識のある人 - knowledgeable）	重点① 学校生活のリズムやテンポを生み出し、1 時間目の授業に向かう姿勢をつくる「モジュールタイム（通称：UP タイム）」の充実を図る取り組み	A
		重点② 自己実現やグローバルな視点を養う「キャリアプロジェクト（PYP）」の実施	A
	(2) 社会性の向上、品性と感性を育む取り組み （挑戦する人 - Risk-takers） （バランスのとれた人 - Balanced）	重点① 場に応じた態度や言葉遣いが身につく「面接・集団討論の指導」の実施	A
		重点② 自己実現やグローバルに将来を見据える力を養う「キャリアプロジェクト（PYP）」の実施	A
		重点③ 協調性や公共性を高める「北海道卒業旅行プロジェクト（PYP）」の実施	A
	(3) イベントの企画力・運営力・構成力・集客力・発信力の育成を図る取り組み （考える人 - Thinkers） （バランスのとれた人 - Balanced）	重点① 委員会活動における各種イベントの積極的な実施。本校の児童として必要な、企画力・運営力・構成力・集客力・発信力・ユーモアセンスなど総合力の育成を図る	B
学習面	(1) ICT 活用スキルの育成 （知識のある人 - knowledgeable） （考える人 - Thinkers）	重点① 「卒業研究プロジェクト（PYP）」での資料づくりや日頃の授業やプロジェクト、委員会活動などを通して、PC（Microsoft office/ 動画編集）のスキルアップを目指し、ICT 活用スキルを育成する取り組みの実施	A
	(2) 本に親しみの読書時間の確保 （知識のある人 - knowledgeable） （考える人 - Thinkers）	重点① UP タイムで読書時間を設けたり、本の貸し出しを促したりすることで、読書習慣を養う。さらに児童会活動で「本の読み聞かせ会」などのイベントの実施	B
		重点② 「卒業研究プロジェクト（PYP）」でテーマに関連した資料や文献を読み、関連した事柄を読み取る読解力の育成	A
	(3) グローバル感覚の育成 （コミュニケーションがとれる人 - Communicators） （思いやりのある人 - Caring）	重点① 英語力向上を目指した取り組み 「英語スピーチコンテスト2023」の実施	A
健康面	(1) スポーツや音楽を楽しむ心の育成 （バランスのとれた人 - Balanced）	重点① スポーツ大会「スポーツDay」クラスマッチの実施	B
		重点② 音楽の楽しさを味わいながら、仲間と作り上げる「学年合唱」	A

(3) メディア利用状況

① 学校図書貸し出し状況

1F メディアセンターと2F メディアセンターには児童用図書が配架されている。休み時間や言葉の授業、朝の活動などを中心に貸し出しを行った。平常時は1人2冊、長期休みには1人3冊の貸し出しを行った。今年度貸し出された本の冊数の合計は23,234冊であった(表1-3-1)。今年度は新たに読書週間の取り組みを導入し、読書を励行した。2021年度・2022年度ほどではないものの、1人あたりの平均読書数は50冊以上を保っている(表1-3-2)。

年度	合計(冊)
2023年度	23234
2022年度	23638
2021年度	27062
2020年度	21964
2019年度	25481
2018年度	26575
2017年度	19764
2016年度	18289
2015年度	15779
2014年度	8487

表1-3-1 学校図書貸し出し冊数

年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
冊数/1人	51.8	52.6	72.3	51.3	58.4
年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度
冊数/1人	62.5	47.4	45.1	40.3	21.9

表1-3-2 児童1人あたりの学校図書年間平均貸し出し冊数の推移

② コンピュータ活用状況

1Fメディアセンターと2Fメディアセンターには、児童が気軽に利用できるパソコンが置いてあることで授業やプロジェクト学習に使用することが多い。最新のWi-Fiルーターを活用することで、ノートパソコンの起動が速くなったり、安定してインターネットにアクセスできるようになったりした。6年生の卒業研究、5年生のなぜプロジェクト研究では、インターネット等を活用して調査したテーマについて、ワードを使って研究論文を書き、パワーポイントでまとめて発表するというコンピュータをさまざまに利用した総合的な活動も行っている。加えて、引用文献や参考資料の記載方法など知的財産を活用する際の

マナーも学んでいる。また、人間関係や言葉、科学、社会、数、英語などの領域学習では、それぞれの学習内容にリンクしたソフトの使用やデジタル教材の使用が行われている。低学年から高学年までのプロジェクト学習においても学年に応じた内容で積極的に利用されている。iPadの使用頻度も上昇しアプリを活用した効果的実践も増えてきた。パソコンを使用した授業の総時数は、約1000時間である。1年間の授業時数、約1100時間(6×約180)の割合は約90%となっている。ICTを活用した授業が積極的に行われていることがよくわかる。

(4) 表彰実績

◆ 県・全国の上位レベル

<学術>

第3回山梨県立科学館大村賞	最優秀賞(2名)
第34回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞	佳作(2名)
第73回全国小・中学校作文コンクール	最優秀賞(2名), 優秀賞
令和5年度小学生の税に関する習字展	山梨日日新聞社賞, 甲府税務署長賞, 佳作(3名)
第66回JA共済全国書道コンクール山梨県大会	全国共済連山梨県本部運営委員会長賞, 金賞(2名), 佳作(6名)
第13回税に関する絵はがきコンクール	甲府法人会会長賞, 甲府法人会女性部会長賞 優秀賞(4名), 佳作(12名)
第19回IPA「ひろげよう情報モリ・作りしんこう2024」	優秀賞
第26回新春科学の夢を描く作品展	山梨日日新聞社賞
第69回白い杖愛護作文	優秀賞(3名)
第20回小中学生新聞感想文コンクール	入選(4名), 学校賞
第71回山梨県統計グラフコンクール	知事賞(3名), 教育長賞(4名), 入選(7名), 佳作(11名)
第71回全国統計グラフコンクール	入選(2名)
TOEFL Primary Step2	10 badges
第69回青少年読書感想文コンクール 山梨県大会	特選, 入選
第69回青少年読書感想文コンクール 全国大会	毎日新聞社賞
お菓子のちから作文コンテスト	優秀賞, 学校賞
さんスタコンテスト2023	学校奨励賞
山梨県考古博物館「わたしたちの研究室」	優秀賞
第二十五回酒折連歌賞	優秀賞

<音楽>

第90回NHK全国音楽コンクール山梨大会	銅賞
----------------------	----

<絵画造形>

第66回JA共済交通安全ポスターコンクール山梨県大会	山梨県農協中央会長賞
第36回山梨県緑化・育樹ポスターコンクール	優良賞
第21回「富士さんへ謹賀新年〜富士山あて年賀状〜」	優秀賞(2名), 入選(8名)
デザインあ nao みんなのあ	入選(8名)

Ⅱ 学校体制

(1) 学級数・在籍児童数（2023年4月）

Web 版は削除

(2) 教職員一覧（2023年4月）

Web 版は削除

(3) 研修・授業研究

① 研修・授業研究

教員の資質向上のために、積極的に学内外での研修や研究会への参加および、校内での授業研究を行ってきた。

表2-3-1 研修回数一覧

種類	回数（延べ）
学外研修・研究会	50回
学内研修・領域ミーティング	120回

② 主な授業研究

表2-3-2 重点研究の内容

研究テーマと概要
<p>全校研究テーマ：Deep Reading Skill（深く読む力）の獲得 ～思慮深く考えられる子どもの育成～</p> <p>本校で用いる「Deep Reading Skill（深く読む力）」を次のように定義する。1 つ目は「複数の資料を比較したり，関連付けたりできる力」とする。2 つ目は「書き手の視点に立って，疑問を持ちながら読む力」とする。これらの力をどのようにつけさせていくのかを言葉・社会・人間関係領域を中心に研究を進めてきた。年度末には，実践研究の成果と課題を明らかにした。</p>

(4) 家庭と学校の連携

家庭と学校の連携を図るために，各種行事（参観日，スポーツフェスティバル，カルチャーフェスティバル）に加えて，各種発行物，ホームページのWeb 連絡帳やWeb アルバムを充実させてきた。多くのおたよりをデジタル化し，端末からいつでもおたよりを確認できる体制を構築した。

① 主な発行物

2023年度の主な発行物は以下の表2-4-1の通りである。

表2-4-1 主な発行物

名称	種類
学びのあゆみ	学期末通信簿（個人別）
ユニットレポート	PYP 探究学習の流れ説明
やまもも1	1学年通信
やまもも2	2学年通信
やまもも3	3学年通信
やまもも4	4学年通信
やまもも5	5学年通信
やまもも6	6学年通信
ほけんだより	保健通信
歯科学校医だより	保健通信
給食だより	食育通信
TS 通信	TS 通信
献立表	月の給食献立

② 家庭との連携に関する保護者評価

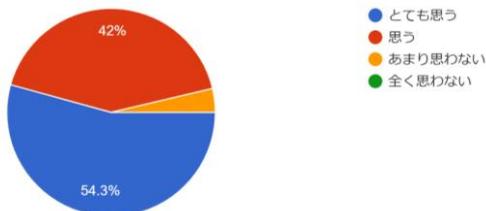
2023 年度末に実施した保護者アンケートから、家庭との連携に関連する結果を以下に示す。

保護者アンケート

2. 家庭と学校との連携 より

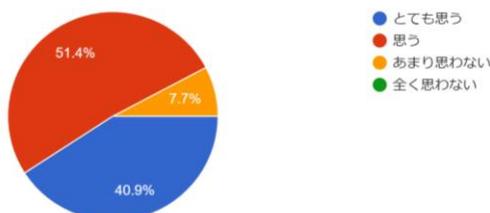
2-1 学校は、おたより、web 情報などを通じて、子どもの学びの様子を具体的に伝えている。

とても思う・・・・・・・・・・54%
 思う・・・・・・・・・・42%
 あまり思わない・・・・・・・・ 4%
 まったく思わない・・・・・・・・ 0%



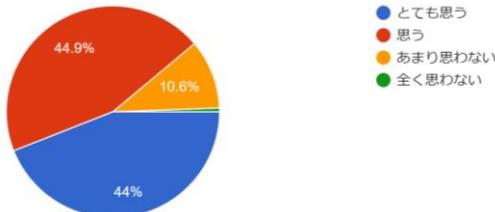
2-2 家庭では、おたより、Web 情報などを通じて子どもの学びの様子や学校の情報を把握できている。

とても思う・・・・・・・・・・41%
 思う・・・・・・・・・・51%
 あまり思わない・・・・・・・・ 8%
 まったく思わない・・・・・・・・ 0%



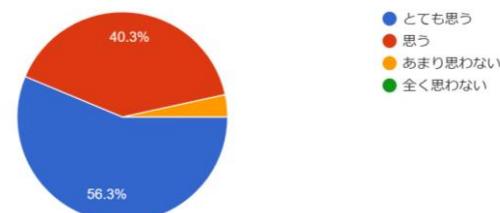
2-3 子どもがトラブルから学び成長するため、保護者と学校が協力しながら取り組んでいる。

とても思う・・・・・・・・・・44%
 思う・・・・・・・・・・45%
 あまり思わない・・・・・・・・ 11%
 まったく思わない・・・・・・・・ 0%



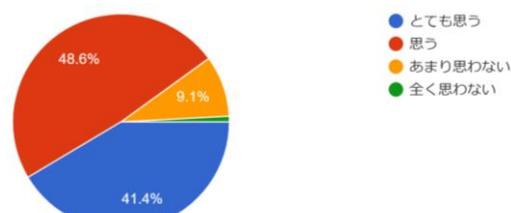
2-4 学校は子どもに事故や怪我があったときに、迅速で丁寧な対応をしている。

とても思う・・・・・・・・・・56%
 思う・・・・・・・・・・41%
 あまり思わない・・・・・・・・ 3%
 まったく思わない・・・・・・・・ 0%



2-6 子どもの学力向上や基本的な生活習慣を身につけるために保護者と学校が協力しながら取り組んでいる。

とても思う・・・・・・・・・・41%
 思う・・・・・・・・・・49%
 あまり思わない・・・・・・・・ 9%
 まったく思わない・・・・・・・・ 0%



Ⅲ 健康・安全

(1) 健康管理

① 保健室来室状況

本年度、2月29日までに保健室に来室した児童の総数はのべ2199人で、1日平均11.1人であった。保健室に来室した児童ののべ人数を表3-1-1に示す。なお、この来室者の統計は、病気やけがで保健室を来室した児童。このほか、保健室には、休み時間をすごしに来る児童、相談に訪れる児童、学習に訪れる児童などがあるが、その数は総数には含まれていない。また、令和5年度5月より新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類感染症になったため、児童の活動範囲も制限がなくなり、活発になったことで来室者はコロナ禍前に戻りつつある。

表3-1-1 病気・けがによる保健室への来室のべ人数

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
病気(人)	601	301	265
けが(人)	1597	1308	1280
合計(人)	2199	1609	1545

② けがについて

本校では、児童の安全を確保するよう細心の注意を払っているが、来年度も、けがを防止するよう努めていきたい。

≪病院受診を要したけが≫ 22件（内訳：運動中の骨折・捻挫、転倒での切挫傷・打撲など）

③ 学校環境衛生の管理状況

本年度は、1. 室内空気検査、2. 照度検査、3. 室内騒音検査、4. 水質検査を行い、結果はすべて学校環境基準を満たしており、特に問題はなかった。

④ 健康管理の全体の評価と改善

本校では、保健室を中心に、児童の健康管理に取り組んでいる。本年度の成果と来年度の方向を以下にまとめる。

<本年度の成果>

- 1 健康診断の計画・実施・事後指導をスムーズに行なえた。
- 2 手洗い指導が継続実施できた。
- 3 身体担当と連携し、保健学習「薬について」を学校薬剤師と実施することができた。

<来年度の方向>

- 1 保健室来室状況をもとに安全担当と連携し、けが防止を進めていきたい。
- 2 新年度プロジェクトの中で発育測定等を組み込み、授業時間の確保に努めたい。
- 3 感染症の流行がなければ、歯の保健指導を再開したい。

(2) 安全

① 防災対策

本校では、独自に制定した「防災計画」の予防管理対策、自衛消防活動、地震対策等に基づいて日常の防災管理に当たるとともに、計画的に防災訓練を実施している。

1. 日常の防災管理については、毎日の退勤時に各部署で火気・照明・空調等を点検した結果を点検表に記入、毎月1回、消防用施設設備の点検を行っている。

2. 防災訓練の目的

①火災や地震が発生した場合の行動・対処の仕方を理解し、実際に行動がとれるようにするための機会とする。(児童)

②児童の避難誘導、連絡のあり方、及び関係機関への連絡のあり方について、実際に学ぶ機会とする。(教職員)

3. 防災訓練活動報告

- ・ 4月10日(月) 授業時間帯の火災を想定した避難訓練を実施
- ・ 6月15日(木) 全国緊急地震速報の放送訓練に合わせたシェイクアウト訓練を実施
- ・ 8月31日(木) 防災備品(食料含む)の点検、門扉手動開閉の確認など教職員対象の訓練
- ・ 9月1日(金) 授業時間帯の地震を想定した避難訓練を実施
- ・ 1月9日(火) 休み時間帯に緊急地震速報が発令された想定訓練 抜き打ち

4. 訓練の反省

- ・ 昨年度は、感染症対策として各学年による避難訓練を主に計画、実施していたが、今年度は全校で避難訓練を行うことができ、児童らも概ね緊張感をもって訓練に臨むことができていた。
- ・ 8月31日に実施した教職員対象の訓練や点検では、実際に手動で門扉を開閉することで、非常時に備えることができた。

② 防犯対策

本校はセキュリティに万全を期した施設設備となっているが、開校以来、さらに、その精度を高めるために、より機能するような取組に努めてきた。

1. 登校時、下校時の電動式校門の開放時には、不審者の侵入防止のために、必ず、職員の監視をつける。
2. 児童を迎える保護者には保護者認証カードを首から下げてもらう。
3. 下校時、警備会社に委託して、学校警備員に学校周囲の警備とお迎えの車の整理に当たってもらう。
4. 毎月1回、校舎周囲の施設設備に異常がないか点検しその結果を記録する。
5. 今年度は、10月26日(木)に、授業時間帯の不審者校内侵入を想定した防犯訓練を実施した。

③ 安全に関する保護者評価

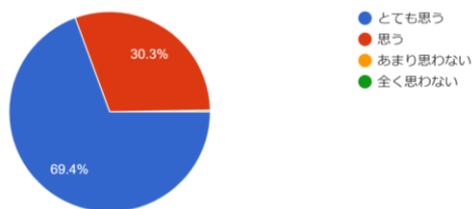
2023 年度末に実施した保護者アンケートから、安全に関連する結果を示す。

保護者アンケート

2. 家庭と学校との連携 より

2-5 学校は、防災や防犯などについて安全を確保するためのセキュリティ対策を十分に行っている。

とても思う・・・・・・・・・・70%
思う・・・・・・・・・・30%
あまり思わない・・・・・・・・ 0%
まったく思わない・・・・・・・・ 0%



おわりに 来年度に向けて

『山梨学院小学校 2023 年度自己点検・評価報告書』を皆さまにお届けします。

平成 19 年度より、学校教育法施行規則に「自己点検・評価」の実施が明記され、各学校が教育活動などの学校運営の状況についてみずから評価し、その結果に基づいて改善を図る取り組みを行い、それらを公表することが義務付けられるようになりました。これを契機として、本校では、年度末に自己点検・評価を行い、児童アンケート、保護者アンケートを交えながら、私たちの教育活動を振り返り、それを報告書として公表してきました。

保護者アンケートにあたっては、紙面の都合上全てを掲載することはできませんでしたが、自由記述の欄には本校教職員への身に余る励ましの言葉、お子様の成長に対する喜びの言葉をたくさんいただきました。また、本校の教育に対するご指摘や建設的なご提案もいくつもいただきました。来年度の学校運営の中で、担当者でご提案について協議し、できる限り改善へと繋げていくことをお約束します。

最後に、本年度の教育活動の評価・改善をもとに、来年度の学校重点目標を以下に示し、本書のまとめにしたいと思います。

校長 瀬端 淳一郎

山梨学院小学校
2023年度 自己点検・評価報告書

2024年3月31日 印刷
2024年4月 1日 発行

編集 山梨学院小学校自己点検評価委員会
発行所 山梨学院小学校
所在地 甲府市酒折1-11-1